

<研究目的>

本プロジェクトは、国際比較の観点から中国・韓国・日本における高齢者や障害者などケアサービスの利用者、そしてそのケアギヴァーを含めたケアシステムを明らかにし、共生社会に向けた課題を提示することを研究目的としている。

このプロジェクトは、研究対象の設定と、研究チームづくりにおいてそれぞれ特徴を持っている。第一、研究対象設定においては、ケア問題を単にケアサービスの利用者限定せず、「ケアとケアギヴァー」をワンセットにして設定しているということである。それは、ケアギヴァーが直面している社会的排除の実態を反映した問題設定である。第二に、研究チームづくりと研究の進め方の特徴としては、研究領域を貧困者、高齢者、障害者、子ども、不健康者、さまざまな形の家族などに区分し、それぞれの人口グループのケア問題を専門とする研究員が、中国と韓国のカウンターパートの研究者と小研究チームを作り、各領域のケア問題を東アジア比較の観点から考察していくという進め方にある。委嘱研究員はそれぞれの国の専門研究者（主に大学教員）になっているが、国策研究機関（中国社会科学院、韓国保健社会研究院）の重鎮研究者もそれぞれ1人含まれている。

本研究内容の概要は次の通りである。

第1部 ケアと共生の哲学

第2部 ケア・ケアギヴァーの状況：東アジア比較

第3部 ケア問題と共生の課題

●ケア・ケアギヴァーの問題と社会的排除について

広義の社会福祉制度の発展過程をみると、先に社会保険制度をその柱とする社会保障体制が整備され、その後社会サービス体制が整備されるというパターンが一般的である。東アジアにおいても、福祉発展段階の違いはあるが、社会サービス分野の構築あるいは再構築が求められている。

貧困層とともに、高齢者、障害者、児童、不健康者などケアを必要とする人々は、社会的に排除された人々、脆弱な人々（the vulnerable）と呼ばれてきた。ところが、2000年代に入ってから、社会的排除論の本拠地であるヨーロッパでは、ケアを必要とする人々だけでなく、彼らにケアを提供するケアギヴァーをも社会的に排除された人々の範疇に入れて論議するようになってきている。それは、福祉発展水準に関わりなく要介護者へのケアは、家族ケアがもっとも基本的対応になっていること、そしてケアギヴァーとしての家族の厳しい現実を直視した論議である。本研究においては、以上のような国際的・学問的潮流に理解を示しながら、ケアを必要とする人々と彼らのケアギヴァーをワンセットとして捉え、全体としての介護実態を明らかにし、共生社会の課題を提示したい。

●東アジアにおける共生への関心の高まり

1990年代以降、東アジアもグローバルな新自由主義的思潮の影響下に置かれるようになり、社会的不平等が拡大している。ところが、市場化の影響は福祉発展の段階によって大きく異なる。日本は、脱商品化がある程度達成できた段階での市場化、韓国は、脱商品化と市場化が同時に行われている状況、中国の場合は、脱商品化以前の段階での市場化政策が進行している。さらに、東アジア地域には、家族主義的伝統の影響で、ケアギヴァーとしての家族も労働参加の機会が制限されるなど、社会的排除の問題に直面している。

日本はケアシステムの構築に努めてきたが、介護殺人問題や待機児童の問題などで表出されている問題解消のために、新たなケアシステムづくりに迫られている。韓国では、近年高齢者ケア、そして特に保育分野においては大きな発展があったが、障害者ケアの領域は相対的に立ち遅れ、しかもケアギヴァーへの社会的支援はさらに大きな課題を抱えている。中国では、2015年以降「共享」（「共生」の中国式表現）という理念の下、2016年から5年かけて現在約7,000万人とされる絶対貧困問題（年収3,000元以下。約5万円）を解消するという新しい政策を打ち出しているが、貧民の大半は農村貧困層であり、農村地域のケア問題は貧困問題とは切り離しては考えられない。こうした中国特有の事情を考慮し、中国の研究チームには農村貧困専門研究者1人を委嘱研究員として委嘱している。

<研究計画>

日中韓のケアシステムと共生について、次のような項目を明らかにしたい。

1. ケアに関わる社会サービス制度と社会保障・社会福祉制度：日本・中国・韓国
 - (1) ケアに関わる社会サービス制度の概要・発展・課題
 - (2) ケアに関わる社会保障・社会福祉制度の概要・発展・課題
2. ケアの実態：日本・中国・韓国の状況
 - (1) 高齢者ケアとケアギヴァー
 - (2) 障害者ケアとケアギヴァー
 - (3) 子どもケアとケアギヴァー
 - (4) さまざまな家族のケアとケアギヴァー
 - (5) 不健康者ケアとケアギヴァー
 - (6) その他の独自のケア問題
3. 共生の課題
 - (1) 日中韓ケアシステムの共通点と相違点、その説明
 - (2) 共生の課題